

★本解説における「接続語」とは、「関係を表す言葉」という意味で用いている。品詞分類における「接続詞」よりも広い意味。また、仮定条件などの助詞の働きは因果関係に含めている。

01 「同等関係」整理問題

① 〈具体〉りんご、ぶどう、バナナ、キウイ

← などといった……抽象化の文中接続語

〈抽象〉フルーツ

② 〈抽象〉単位

← たとえば……具体化の文頭接続語

〈具体〉メートル、リットル、グラム

◆ポイント……接続語をもとに、具体・抽象の関係(同等関係)を判断する。

02 「同等関係」整理問題

① 〈具体〉横にスライドさせてみたら

← 抽象化

〈抽象〉動かす方向を変えたら

② 〈具体〉分かります

← 抽象化

〈抽象〉理解はできる

◆ポイント……言いかえるべきパーツを限定してから抽象化する。②の「合意」は

「賛成」とほぼ同じ意味になってしまうので不可。

03 「対比関係」整理問題

アメリカの国土の面積は / 日本の二五倍 以上ある

人口は / 二・五倍程度である。

対比関係の文中接続語

◆ポイント……「AはAだが、イはB」の型(対比関係の基本形)。Aと対比されて

いるのはイ、Aと対比されているのはB。

04 「因果関係」整理問題

ア 雲が日を隠す

← と ……因果関係の文中接続語

イ 部屋の中が暗くなった 部屋に差し込む光が減った

← それで ……因果関係の文頭接続語

ウ 消えていないライトが残っていることに気づいた

◆ポイント……選択肢2「雲が日を隠したから」は、右図「ア」を説明したにすぎ

ない。「ア+イ」の意味を持つ選択肢4「太陽が雲に隠され、部屋に差し込む光が

減ったから」のほうが、相対的に理由としてふさわしい。

05 「同等関係」「対比関係」整理問題

「うわー、もうダメかも」……「悲観的」と抽象化できる

「震度4くらい、無視、無視」……「楽観的」と抽象化できる

「今の地震は横浜で震度4でした」……「客観的」と抽象化できる

「今の地震はけっこう大きかったよ」……「主観的」と抽象化できる

◆ポイント……「苦楽」と考えると「苦観的」などとしてしまうので注意。

06 「対比関係」整理問題

A 山梨県は／海に接していないが、  
山口県は／海に接している。 対比の観点の統一 OK  
パーツの数のバランス OK

B 山梨県は／海に接していないが、  
山口県は／海に接しており、 島も含まれる。  
パーツの数のバランスが悪い

C 山梨県は／山が多いが、  
山口県は／海に接している。 対比の観点が不統一

分類

C……1 野球では 攻めと守りを繰り返しながら試合を行うが、

サッカーでは 攻める役割と守る役割をはっきり分けて試合を行うわけではない。

A……2 野球では 攻める役割と守る役割がはっきりと分かれているが、

サッカーでは 攻める役割と守る役割がはっきりと分かれていない。

B……3 野球では 攻める役割と守る役割がはっきりと分かれており、

攻めと守りを交互に入れ替えながら試合を行うが、

サッカーでは 攻める役割と守る役割がはっきりと分かれていない。

◆ポイント……対比関係を整えるには、

① 対比のバランス（パーツの数のバランス、および抽象度のバランス）

② 対比の観点の統一

を意識する必要がある（鉄則7）。

☆ 鉄則とは、『国語読解22の鉄則』（福嶋隆史著・大和出版）の内容（以降同じ）。

07 「同等関係」整理問題

動植物の生態について調べる

調べることと自然に親しむことは同じではない。

≠ 〈具体〉森に分け入って昆虫を探す／湖で手漕ぎボートに乗る／

テントを張って川原で一泊する

〈具体〉川や海で泳ぐ、林の木々を拾い集めて火を起こす、広い草原を駆け回って遊ぶ

← などというような……抽象化の文中接続語

〈抽象〉自然に親しむ機会／五感を刺激する機会／文明生活を離れる機会

← 日常から遠ざかる機会



非日常から遠ざかる機会

◆ポイント……「都会に住んでいる子どもたちであっても」というのもヒントになる。都会と文明の類似性、都会と自然の対比性などを考えると分かりやすい。

08 「因果関係」整理問題

① 正答パターンは左図のとおり（空欄2に入れる形）。

ア 失敗する

← だから ……因果関係の文頭接続語

イ 次は失敗しないようにしようと思う

← だから

ウ 失敗の原因を探り対策を練るようになる

← だから

エ 失敗の確率が減る

← だから

オ 成功する

② 正答パターンは左図のとおり（空欄4に入れる形）。

ア 成功する

← だから

イ 次も成功するイメージがわき、油断が生じる

← だから

ウ 成功の要因を冷静に考えるには至らない

← だから

エ 次に成功する確率は高まらない

← だから

オ 失敗する

予想される誤答パターンは、左図のとおり（空欄5に入れる形）。

ア 成功する

← だから

イ 成功の要因を冷静に考えるには至らない

← だから

ウ 次も成功するイメージがわき、油断が生じる

← だから

エ 次に成功する確率は高まらない

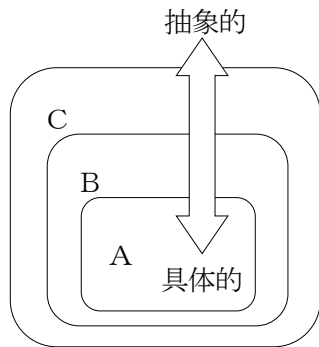
← だから

オ 失敗する

◆ポイント……正答パターンの図でイの要素がないと、「成功するから冷静に考えなくなる」という因果関係になってしまう。このままでは飛躍が大きい。プラス要素（成功する）とマイナス要素（冷静に考えなくなる）とが直結しているのが、

飛躍を感じる一因。誤答パターンでは、このアとイの飛躍が放置されると同時に、イとウの結びつきの違和感も残る。イとウも先ほどと同様、マイナス要素（冷静に考えない）とプラス要素（次の成功のイメージがわく）が直結することになっているのが、違和感の一因。因果関係においては、プラス・マイナスが直結することは少ないと考える必要がある。なお、「成功の要因を冷静に考えるには至らない」という部分が、「成功の要因を楽観的に考えるようになる」と書かれていれば、誤答パターンもだいたい説得力が増すが、両者は似て非なる表現であり、区別する必要がある。

### 09 「同等関係」整理問題



〈同等関係を整理するためのマトリョーシカ方式〉

外へ向かうほど抽象的（意味が広くなる）  
内へ向かうほど具体的（意味が狭くなる）

パターン1は、C、B、Aの順に説明（野菜、根菜類等、大根等）。

パターン2は、C、A、Bの順に説明（野菜、大根等、根菜類等）。

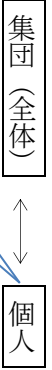
パターン3は、A、C、Bの順に説明（大根等、野菜、根菜類等）。

①はパターン3と同じ（自動車等、乗り物、陸上の乗り物等）。

②はパターン2と同じ（体育の時間に行う運動、跳び箱等、体育館での運動等）。

③はパターン1と同じ（料理、和風の料理等、寿司等）。

10 「同等関係」「対比関係」整理問題



「みんなで力を合わせて問題を解決しよう」というような呼びかけは、聞こえはいけれど、あまり効果的でないことも多い。たとえばそこに三〇人のメンバーがいるとして、その三〇人それぞれの行動を促すに足るメッセージであるとは言えない。それぞれの役割を限定的に明示することが、リーダーには求められるのではないか。



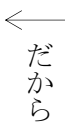
- 1 個人 ではなく みんな ……主張の逆
- 2 集団全体 よりも 個人 ……主張と同じ
- 3 役割を決めつけないようにすべき ……「役割を限定的に明示」に反する
- 4 あいまい よりも はつきり ……主張と同じ

◆ポイント……右図のように、文中の具体的表現を、対比関係を意識しながら抽象化することが肝心である。つまり、「くらべながら言いかえる」ということだ。

「あいまい」という意味合いは明確には表現されていないが、「限定的に明示」という主張が、冒頭の「みんなで……」を否定して発せられていることを考えれば、その意味合いを読み取ることが可能である。

11 「同等関係」「因果関係」整理問題

- ① 電車は公的な乗り物だ



だらしなない身なりで乗るわけにはいかない

② 線的にとらえ

話が続いているということに気づく

◆ポイント……②の「ば」は正確には助詞であり、ここでは条件接続の働きをしている。「線的なつながりへの意識を持てば(持っていないば)、話の連続性に気づく」ということである。誤答としては「内的にとらえれば」などが考えられるが、「内的」が何を意味しているのかが読み手によって幅広く変化してしまうため、不適。

12 「同等関係」「因果関係」整理問題

「今日はいつもとより早く起きたんだよ、とうったえても、五分早いのか二時間早いのか、朝五時なのか朝七時なのか、そういった細かな情報は含まれず、どうしても感覚的になってしまう」という部分は、「早いという言葉は感覚的になる」、つまり「形容詞は感覚的になる」と述べている。そして、直後で、「感覚的な表現というのは、説得力を持たない」と述べている。

これらを単純に組み合わせると、「形容詞は感覚的であり、感覚的な表現は説得力を持たないから」という答えができあがる。ここまで考え、しかるのちに選択肢を選ぶのが王道(鉄則21)。

この答えと同じ意味を持つのは、5の選択肢である。

1は、「早い」という具体例に限定しており、かつ、「感覚的」の具体的説明(どのくらい早いのかという細かな情報を含まない)に限定しているので、不適。

2が最も間違いやすい。「形容詞は感覚的な表現である」とことと、「感覚的な表現は説得力を持たなくなる」ことは正しいが、それらを「ため」でつないでいるがゆえに、誤答である。意味の破綻した文になってしまう。個々には正しいはずのパー

ツも、勝手に（本文に即さず）因果関係で結びつけることで誤答になる。このケースは多いので、要注意。

3には、「形容詞は相手の感覚にうったえる力がない」とあるが、形容詞は感覚的だと言っているのだから、逆に近い。

4は文章の最後を用いているわけだが、説得力がないことこの理由には無関係。

### 13 「対比関係」整理問題

ここに書かれた固有名詞は全て架空のものである。実在しない。

内容的知識がなくても、関係性の操作によって形式的に相応の意味を生み出すことができるという言語の特徴を表現した設問である。

まず、この問いが「異なる」もの、すなわち「相違点」を問題にしていることに注目する（設問の読解Ⅱ鉄則5）。そこで、共通点はカットして考えてよいことになる。「マーケシムを近づける」が共通点だ。それをカットすると、文章は次のようになる。

セリトリブチンという薬品は、  
ガルパニソンの働きを / 無効化するが、  
パルジチソンの働きは / 無効化できない。

こうすると一目瞭然。――部が、「アはAだが、イはB」の型になっている。相違点は、対比関係によって示されるわけだ。

答えは、必然的に「1 ガルパニソン」となる。

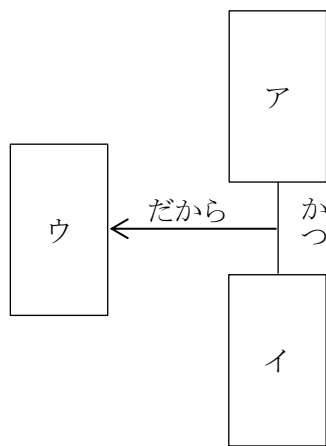
なお、この問題は、ある新聞記事で紹介された問題をヒントにして作成した。

詳しくは、「中学生正解率9%の「一文読解」をどう教えるか？」新井紀子氏によるRSTの結果を受けて「」を参照のこと。→ <https://bit.ly/2J5bm2K>

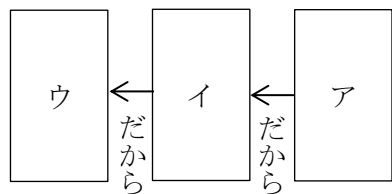
### 14 「因果関係」整理問題

因果関係には、大きく分けて次の2パターンがある。

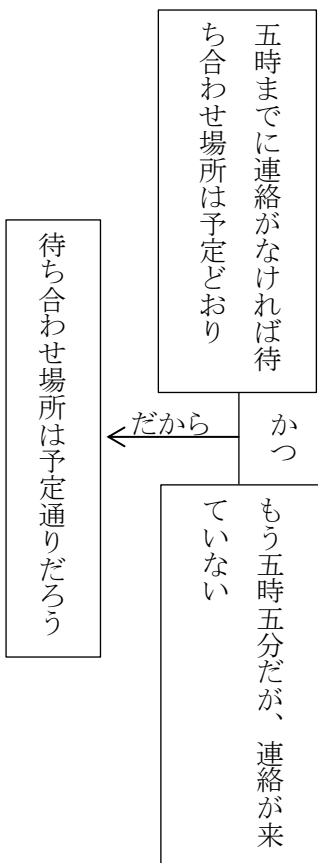
パターン1（むすんでたどる）



パターン2（たどる）

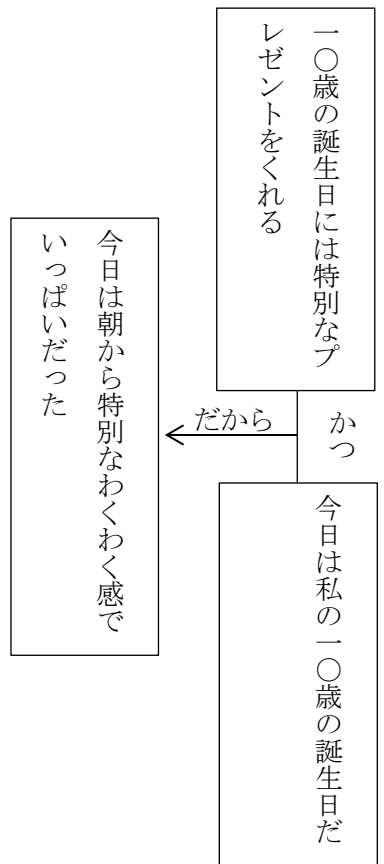


今回は、パターン1の問題（鉄則20）。



1は、右図パターン2である。犬が飛び出してきた。だから僕は驚いた。だからみんなが僕を見た。という流れ。

2が、パターン1であり、正解。



3は、二文目まではパターン2の因果関係、三文目は対比関係。  
 4は、パターン2だが、逆にたどっている(ウイアの順)。ライトが消えた。なぜなら、電池が切れたから。なぜなら、テスト用だったから。

**15** 「同等関係」「対比関係」整理問題

最後の一文を対比的に抽象化する(くらべながら言いかえる)ことが大切。

一見	より	百聞
自分の目で見る	より	他人から聞く
現実・現場	より	想像・仮想
実質	より	言葉(形式)
直接	より	間接
身体	より	精神

のほうが価値がある

こうして、関連する反対語への言いかえを瞬時に行えるよう訓練することが肝要。

こうすると、①の1・3・4は逆であり、2・5が正しいことがすぐ分かる。

①は、抽象化問題。②は、具体化問題。

一般に、具体化問題のほうが難解である。抽象化が正しくできていないと答えられないからだ。

1は、「テレビや新聞で見聞き(百聞)」よりも「被災地をこの足で訪れた(一見)」を評価しているため、不適。

2は、「友だちの言葉(百聞)」を疑っており、「のぼってみて、なるほど(一見)」と実体験を評価しているので、不適。

3は、自分の目による直接的な観察(一見)よりも、他人の分析による間接的な予報(百聞)のほうが正しかったという例であり、正解。

4は、自分が実際に訪れて得た情報(一見)は部分的であり、「たまたま訪れる」よりは幅広く被災地を当たっているであろう他者による報道(百聞)の全体性を超えられなかったという解釈が妥当であり、これも正解。

5は、授業参観(一見)の結果、うわさ(百聞)が否定された形であり、不適。

**16** 「同等関係」「対比関係」整理問題

- A 「特色」…具体的な色を指し示さない。 抽象的な意味のみ持つ。
- 「顔色」…具体的な色を指し示す。 抽象的な意味も持つ。
- B 「情熱」…具体的な熱を指し示さない。 抽象的な意味のみ持つ。
- 「熱気」…具体的な熱を指し示す。 抽象的な意味も持つ。
- C 「学力」…具体的な力を指し示さない。 抽象的な意味のみ持つ。
- 「圧力」…具体的な力を指し示す。 抽象的な意味も持つ。
- D 「理路」…具体的な路(道)を指し示さない。 抽象的な意味のみ持つ。
- 「進路」…具体的な路(道)を指し示す。 抽象的な意味も持つ。

具体例を挙げておく。

- A 「顔色」：「顔色が青いよ」…………… 具体的・有形  
「顔色をうかがいながら話す」…………… 抽象的・無形
- B 「熱気」：「車内は混雑で熱気がこもっていた」…………… 具体的・有形  
「熱気のあるチームだ」…………… 抽象的・無形
- C 「圧力」：「こねた粘土に上から圧力をかける」…………… 具体的・有形  
「賛成しろ」という圧力を感じる」…………… 抽象的・無形
- D 「進路」：「台風は進路を北に変えた」…………… 具体的・有形  
「高校卒業後の進路を考える」…………… 抽象的・無形

◆ポイント……ものごとを考える際は、「有形・無形」「具体・抽象」の観点をいつも念頭に置いておく。

17 「同等関係」「対比関係」整理問題

これも、対比的に抽象化する（くらべながら言いかえる）問題である。

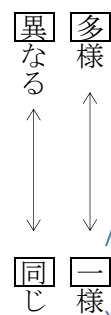
① 「自由時間を増やしたほうがいいと思います。そのほうが楽しいからです」とある子が言った。自由時間を増やすことには賛成だけど、「楽しいから」ではなく、もっとみんなが納得するような説明をしないとイケない。



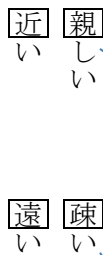
② 「全米一位」といったキャッチコピーのついた映画は多い。しかし、それが多くの人から本当に高く評価されているとは限らない。



③ 「私と小鳥とすず」という金子みすゞの詩があるが、「私」と「小鳥」と「鈴」をくらべるのは、おかしいと思う。だって、くらべようがないじゃないか。たとえば鈴だったらカスターネットとくらべるとか、枠組みを狭くすべきだろう。要するに観点をそろえるべきなんだ。



④ 転校した友だちと毎週続けていた手紙のやりとりも、毎週が毎月に、毎々が毎年に、そしていつしか、止まってしまった。それを話すと、父は言った。「人間関係というのはそんなものだよ」



◆ポイント……②の「一位」という宣伝文句は、観客動員数という意味では客観的事実かもしれない。しかし、だからと言ってそれは、訪れた全ての観客がその映画に高い評価を与えたということとイコールではない。「形式だけ・名前だけでも」隠された裏に、内容・実質を見抜く目を持つべきである」という隠された主張に気づけるかどうかのポイント。②の誤答として考えられるのは、「理想・現実」と読み、答えを「8・17」とするパターン。間違いとは言いつけられないが、ここで8を使ってしまうと、①で答えが出せなくなるので不可。また、「理・実」という一文字の組み合わせが、「理想・現実」の意味を受け手に与えるかという、疑わしい。一方、「情・理」は、一文字の組み合わせでも意味を読み手に運ぶうる。



18 「同等関係」「対比関係」「因果関係」整理問題

本文の中心となる範囲をチェックしておく。一読した段階で、次のようなマーキングと、整理ができていなければならない。

「言葉」というものは、その時代、その地域における「必要」に応じて、生み出されてきたものだからだ。稲作に依拠した生活をしてきた日本人は、稲・米・飯といった言葉を使い分けている。その使い分けが必要だったからだ。

一方、米国人は（米国という名とは裏腹に）、米にまつわる言葉の使い分けを日本ほどには必要としない。ライス (rice) という言葉一つで、日本における稲・米・飯それぞれの意味を原則としてカバーしている。これが、「必要に応じて」ということだ。つまり、こうした区別の必要の度合いが、国や時代によって異なるわけだ。そうであれば、「共通語」の創造は、理想というよりは単なる幻想であるということになるだろう。

（ひるがえって）マークについてはどうか。マークとマークは、先にも述べたように「共通語」である。とはいえ、マークは、文化的差異のない指示対象についてしか用いられない。そこでは、必要の度合いに差異がない。風呂はほとんどの国に存在し、それを指し示す記号がすべて必要である。そういった、限定された狭い範囲の対象についてのみ、マークというものは「共通語」として機能する。

言葉は「必要」に応じて生み出される

区別の必要の度合いは、国や時代によって異なる

マークは必要の度合いに差異がない

A

下段のB・Cの内容は、ほぼ同じことを述べている。

今、文化的差異と述べた。その国、その社会ごとに独自の文化を生み出すものは、言語である。私たちは先に述べた「必要」によって名づけ、名づけによって意味範囲を規定する。そこにその社会固有の言語体系が築かれ、同時に独自の文化が生まれる。

そういう社会性を生み出すには、マークでは足りない。あくまで、言葉が必要だ。マークはほとんど覚える必要がないが、言葉は覚える必要がある。その社会においてある言葉がどのような意味と結びつくのかを、学ばなければならない。言ってしまうえば、言葉を学ぶことによって、独自の社会が構築されていくわけだ。

今、「結びつく」と書いた。先に挙げた「飯(めし)」は、フランス人が聞けば「ありがとう(メルシー)」に聞こえるかもしれない。それは、言葉(記号表現、特に音素)と意味(記号内容)との間に必然的な結びつきがないことを示しており、だから私たちは言葉を学ぶ必要があるのだが、この「結びつきがない」ことを、ソシユールは恣意性と呼んだ。この恣意性があればこそ、総合的に「ライス」と呼ぶのではなく、茶碗に盛られたあの白い粒々の集合体を中心に「飯」と呼んだりすること、すなわち意味の境界線に差異を生じさせる名づけが可能になり、そこに社会の固有性が生じるわけである。言葉の持つこうした恣意性は、マークでは、だいたい弱まることになる(ソシユールは、こうした「マーク」のことを「象徴」と呼んだ)。

区別の必要がある

← だから(因果)

言葉で名づける

← それによって(因果)

意味範囲を規定する

← その結果(因果)

社会固有の言語体系が築かれる

独自の文化が生まれる

→ それによって(因果)

言葉を学ぶ

言葉は覚える必要がある

← だから(因果)

言葉には恣意性がある

← だから(因果)

言葉には恣意性がある

← だから(因果)

言葉には恣意性がある

← だから(因果)

言葉の意味の境界線に差異が生じる(意味範囲が規定される)

← その結果(因果)

社会の固有性が生じる

← その結果(因果)

社会の固有性が生じる

C

B



いずれの選択肢も「具体」なので、抽象化が求められる。

### 1について

【五輪マークとその意味との間に必然的なつながりはないと言える】

「意味との間に必然的な結びつきがない」、すなわち「恣意性があること」は、マークではなく言葉の特徴である。それは、「C」の解説の上に書かれている。「言葉の持つこうした恣意性は、マークではだいたい弱まる」ともある。よって、1は不適。

### 2について

【(五線記譜法は) 言語が各国の社会的独自性を生み出すのと同じく、各国ならではの独自の楽曲を生み出す働きを果たしている】

たしかに、常識的に考えて五線記譜法は「独自の楽曲を生み出す」ために用いられているが、「言語が各国の社会的独自性を生み出すのと同じく」というのはおかしい。五線記譜法が「世界中に広まっている」ということは、それが汎用性の高い「マーク」と同じであることを意味している。マークである五線記譜法が言語と同じというのは、本文の主張に反する。よって、2は不適。

なお、「言語が各国の社会的独自性を生み出す」ということ自体は、「B」および「C」の因果関係を見れば明白である。だから、この部分自体については正しい。

### 3について

【英単語であるツリー (tree) もウッド (wood) も、和英辞典を引くと、項目の冒頭に「木」という同じ意味が書いてあることが多い】

これは、英語では使い分けている言葉が、日本語では使い分けられていないことを示している。英語と日本語の関係が4の選択肢の逆だが、言語によって意味の境界線に差異があることを示しているという点では4と全く同じである。

【こうした現象は、たとえばアメリカと日本の道路標識の違いを調べてみると、より多く生じるはずである】

これは、言語の持つ恣意性が、標識（つまり汎用性の高いマーク）にはより多く見られると言っていることになるが、それは本文に反する（2と同じ考え方。よって、3は不適。

### 4について

【日本語では「水」と「湯」は別物のイメージが強いが、英語では「水」と「熱い水 (ホットウォーター hot water)」にすぎず、別物のイメージが弱い】

これは、言語によって意味の境界線に差異があることを示している。

【これは言葉の恣意性のために生じる現象である】

「言葉の恣意性があればこそ意味の境界線に差異が生じる」ということは、「C」の因果関係を見れば分かる。よって、4は正解。

### 5について

前半は「A」、後半は「B」の解説がヒント。

トイレや非常口のマークが【日本でもアメリカでもフランスでも不可欠なものである】というのは、「マークは必要の度合いに（文化的）差異がない」ことを意味する。必要の度合いに差異があればこそ、【その国々の社会の特徴（固有性）が生まれるのだから、必要の度合いに差異がないのならば、たしかに「不十分」である。よって、5は正解。

② 正答の構造と配点は次のとおり。□で囲んだ言葉は、関係性を表している。採点は、それぞれの——部の内容の「有無」と、それらの「関係性」の正しきによって行った。

	有無	関係
ア 言葉は、対象を区別する必要に応じて生じる。	2	—
イ その必要の度合いは、国や時代によって異なる。	1	—
ウ 言葉で名づけることによって	2	1
エ 意味範囲が規定され、	2	—
オ そこに独自性・社会性が生まれる。	2	2
カ 言葉には恣意性があるため、	2	2
キ 私たちは言葉と意味との結びつきを覚えなければならない。	2	—
ク これも、独自性・社会性が生まれる要因である。	—	2
合計	13	7

- ・アまたはイに該当する説明に「区別」がない……減点1
- ・アまたはイに該当する説明に「必要」がない……減点1
- ・ウ・エの内容がなくても、「意味の境界線に差異を生じさせる名づけ」と書かれている場合は「ウ↓エ」の一部をカバーしていると判断するが、「ウ↓エ」の関係性（因果関係）が不十分なため、減点1。「意味の境界線に差異を生じさせる名づけ」と、「名づけによって意味範囲が規定される」とでは、わずかな意味の差があるということである。

- ・カとキの因果関係に触れていない答案が多かった。「言葉（記号表現、特に音素）と意味（記号内容）との間に必然的な結びつきがないことを示しており、だからこそ私たちは言葉を学ぶ必要がある」という部分に明示・強調されている。
- ・キにおいて、覚える（学ぶ）対象として「言葉と意味との結びつきを」というこ

とが明示されていないと、減点1。  
 ・所定の字数に達していない場合、減点10。本来は無条件で0点とすべきだが、書かれた内容に対する評価を正当に行う目的で、この問いに限りこのようにしている。

◆ポイント……ソシユール言語論は、言葉そのものの働きを本質的に考えるうえで必須となる哲学テーマである。物理的な「存在」と、認識的な「存在」とを区別して考えられるかどうかのポイントになる。

ともすれば、「稲とそれとそれを炊いたものがそこに（物理的に）存在するからこそ、言葉による名づけが可能になる」、すなわち「対象が先、言葉が後」と考えがちだが、これは間違っている。

たとえ稲とそれとそれを炊いたものがそこに物理的に存在していても、それらに対して言葉による名づけを行わない限り、それらの「意味」は認識（区別）されないままとなる。それは認識として存在しないことを意味するにとどまらず、物理的にも存在しないに等しいのではないか、ということだ。ゆえに、「言葉が先、対象が後」なのである。

これをもとに考えると、文章の前半で述べられている「区別の必要に応じて」言葉が生まれるというのは、「認識の必要に応じて」という意味であることが分かる。決して、「対象が先にあり、それに応じて言葉が生まれる」という意味ではない。